

「新型コロナウイルスワクチン(スパイクバックス筋注)職域接種後副反応疑い調査中間報告(3回目接種 3月実施)」

- Ⅰ 日本医療科学大学において新型コロナワクチン(スパイクバックス筋注)職域接種後の副反応疑い調査(3回目接種 3月実施)を行いました。
- Ⅰ 接種箇所の副反応は、痛み(約90%)、腫れ(約61%)が多くみられ、その他の症状は、倦怠感(約80%)、頭痛(約65%)、発熱(約63%)、筋肉痛(約63%)、寒気(約55%)の順で多くみられました。
- Ⅰ 発生頻度は多くの場合2日目がピークとなり、6日目頃には大幅に低下していました。
- Ⅰ 女性は全体的に発症率が高い傾向がみられました。
- Ⅰ 3回目接種後の方が2回目接種後よりも低い発症率となっていました。

背景

現在、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種(ブースター接種)が進んでいます。しかしながら、モデルナ社製ワクチン(スパイクバックス筋注)における副反応疑いの大規模な調査は限られており、職域接種における調査報告もごく少数です。そのため、一般の方への正確な情報提供は未だ不十分な状況にあります。

日本医療科学大学では学生・教職員・学外関係者約1200名に対し、新型コロナワクチン(スパイクバックス筋注)の職域接種を3月に実施しました。ワクチン接種後の副反応疑いのアンケート調査を行い、443件の回答を得ました(無回答等を含む)。本調査の回答は、男女が半々で、10代・20代が多く含まれていました(回答の約7割)。本調査の結果は、特に若年層の副反応疑いの状況を正確に理解する上で有用だと思われます。

結果

ワクチンの接種日～8日目において、接種箇所の副反応が発生した人は、痛みが約90%、腫れが約61%、赤みが約37%、かゆみが約31%の順で多くみられました。その他の症状が発生した人は、倦怠感が約80%と多くみられ、次いで頭痛が約65%、発熱が約63%、筋肉痛が約63%、寒気が約55%でした。多くの症状の発生は2日目がピークとなり、6日目頃には大幅に低下していました。性別で比較すると女性は全体的に発症率が高い傾向がみられました。年代別では、中高年齢層では、症状によって発症率が他の年齢層よりも低い場合があります(40代では筋肉痛・接種箇所と同じ側のわきの下の腫れ・痛み、50代ではかゆみ・倦怠感・筋肉痛・接種箇所と同じ側のわきの下の腫れ・痛み、60代では赤み・かゆみ・倦怠感・頭痛・接種箇所と同じ側のわきの下の腫れ・痛み)。1・2・3回目のすべてで発症率が得られている症状について(「接種箇所と同じ側のわきの下の腫れ・痛み」を除く全て)、3回目接種後の方が2回目接種後よりも低い発症率となっていました。

中間報告の資料は以下に掲載しています。

1回目接種 URL:

https://www.nims.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/09/1st_result.pdf

2回目接種 URL:

<https://www.nims.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/10/2nd.pdf>

3回目接種 URL:

https://www.nims.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/3rd_result.pdf

【補足事項】

※本資料は中間報告であり、論文の査読を通過した内容ではありません。詳細な解析を追加で行い、続報や論文等で今後発表を行う予定です。本調査にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

【お問い合わせ】

日本医療科学大学 IR 推進室長

徳永 千尋

TEL: 049-294-9000(代表)

E-mail: tokunaga@nims.ac.jp